〈報 告〉

院外薬局における感染対策に関する意識調査

寺沢 匡史¹⁾・吉村 真弓²⁾・上地 隆史³⁾・森本 一平⁴⁾*Attitude Survey on the Infection Control of Community Pharmacies*Masashi TERASAWA¹⁾, Mayumi YOSHIMURA²⁾, Takashi UEJI³⁾ and Ippei MORIMOTO⁴⁾¹⁾Department of Pharmacy, ²⁾Department of Nursing, ³⁾Respiratory Internal Medicine,⁴⁾General Medicine, Yodogawa Christian Hospital

(2009年12月18日 受付・2010年3月25日 受理)

要 旨

病院内での感染予防が重要視される一方で、院外薬局の待合で感染症患者とその他の患者が一緒になり、感染症拡大の原因となる可能性がある。そこで院外薬局と連携して感染対策を検討していかなければならないと考え、東淀川区薬剤師会会員薬局に各施設の感染対策の現状を把握するためにアンケート調査を行った。アンケートの内容は当院の院内感染防止委員会で検討した。2009年2月に東淀川区薬剤師会会員薬局全55施設にアンケート用紙を郵送した。回収率は89%であった。感染対策の相談窓口としても院外薬局は重要であり、アンケート結果をふまえ、地域の中で病院と連携した感染対策を検討し、地域での感染拡大の防止に貢献していきたいと考える。

Key words : アンケート調査, 感染対策, 院外薬局, 地域連携

はじめに

昨今、外来化学療法の件数も多くなり、加えてステロイド服用患者などコンプロマイズドホストも多いことから淀川キリスト教病院(以下、当院)では入院中のみならず、外来患者への様々な感染対策を検討・実施している。当院は現在、夜間の救急も含め全面院外処方となっている。したがって院外薬局で感染症患者とその他の非感染患者が待合で一緒になり、感染症拡大の原因となる可能性がある。そこで院外薬局と連携して、感染対策を検討していかなければならないと考え、東淀川区薬剤師会会員薬局に各施設の感染対策の現状を把握するためにアンケート調査を行った。

方 法

アンケートの内容は当院の院内感染防止委員会で検討し、2009年2月に東淀川区薬剤師会会員薬局全55施設にアンケート用紙を郵送した。アンケートの回答は各施設の管理薬剤師に依頼した。

結 果

アンケート用紙は55施設に送付し49施設から回収した(回収率89%)。1施設あたりの薬剤師、事務職員(常勤、非常勤を含む)の総数の平均は6.9人であった。

感染対策では、手洗い・うがいや手指消毒は多くの施設で実施されているが、その他の対策はあまりされていなかった(表1)。患者から受けた感染対策の相談内容では、インフルエンザ対策や消毒薬に関する内容が多かった(表2)。各施設での感染対策では、手指消毒をはじめ消毒薬に関することが多く、その他の対策は今後の問題という結果であった(表3)。各施設における感染対策における問題点では、まだ積極的な意見が少なかった(表4)。

考 察

院外薬局の待合は感染症患者とその他の患者、職員が濃厚に接触する機会が多く、病院と同様、様々な感染対策が必要である。院外薬局の感染対策に関してはすでに検討されている施設もあるが¹⁾、どの院外薬局にも感染症患者は突然、来局する場合があります、どの院外薬局でも感染対策は検討していかなければならないと考える。

淀川キリスト教病院 ¹⁾薬剤部, ²⁾看護部, ³⁾呼吸器内科, ⁴⁾総合内科

表1 院外薬局における感染対策に関するアンケートの設問と結果(数値は施設数)

・職員は感染症患者(インフルエンザ, 水痘, 麻疹, 風疹などを含むウイルス性疾患およびその他細菌感染(結核を含む))の対応時, マスクを着用していますか?
1, 着用している 12/49(24%) 2, 着用していない 16/49(33%) 3, 職員個々の判断により着用 21/49(43%)
・感染症患者への対応後, 手洗いやうがいは行っていますか?(複数回答可)
1, 手洗い, うがいの両方 31 2, 手洗いのみ 8 3, うがいのみ 0 4, 全くしていない 3 5, 1日の業務終了時に手洗い, うがいをしている 8 6, その他 2
・薬局内に咳エチケット(咳をする方のマスクの着用など)の啓発の掲示は行っていますか?
1, 掲示している 4/49(8%) 2, 掲示していない 45/49(92%)
・感染症患者(または特に咳などをしている感染症が強く疑われる患者)がマスクを着用していないとき, マスクの提供を行っていますか?(複数回答可)
1, 提供している 5 2, 提供していない 21 3, マスクを販売している 27
・提供または販売されているマスクの種類はどのようなものですか?(複数回答可)
1, サージカルマスク 21 2, 紙マスク 26 3, その他 8
・感染症患者とその他の患者の待合室を区切るなどの対応は行っていますか?
1, 分けている 1/49(2%) 2, 分けていない 48/49(98%)
・感染症患者の薬は順番に関係なく先に渡すなどの対応を行っていますか?
1, 先に渡すようにしている 16/49(33%) 2, 順番通りに渡している 32/49(65%) 3, 両方ある 1/49(2%)
・職員の感染の既往(麻疹, 水痘, 風疹, 流行性耳下腺炎など)や抗体の有無を把握して患者対応を行っていますか?
1, 把握している 15/49(31%) 2, 把握していない 19/49(38%) 3, 個人の判断で対応 15/49(31%)
・職員は既往歴のない感染症のワクチン(麻疹, 水痘, 風疹, 流行性耳下腺炎など)を接種していますか?
1, 接種可能な場合, 全員接種している 11/49(22%) 2, ほとんど接種していない 1/49(2%) 3, 職員個々の判断に任せている 37/49(76%)
・職員はインフルエンザの予防接種を受けていますか?
1, 接種可能な場合, 全員接種している 25/49(51%) 2, ほとんど接種していない 0/49(0%) 3, 職員個々の判断に任せている 24/49(49%)
・患者が触れるドアノブ, 手すり等はアルコールで消毒していますか?
1, アルコールで消毒している 19/49(39%) 2, 水拭きのみ 17/49(35%) 3, ほとんど清拭していない 11/49(22%) 4, その他 1/49(2%) 5, 無回答 1/49(2%)
・調剤の前に手洗い, 手指消毒等を行っていますか?
1, 手洗いとアルコール製剤による手指消毒 33/49(68%) 2, 手洗いのみ 7/49(14%) 3, アルコール製剤による手指消毒のみ 7/49(14%) 4, 全く手指衛生は行っていない 0/49(0%) 5, その他 2/49(4%)
・薬局内の空気を清潔に保つためどのようなことを行っていますか?(複数回答可)
1, 頻繁に換気を行う 27 2, 空気清浄機の導入 12 3, 加湿器の導入 23 4, その他 4
・患者から感染対策, 消毒薬などに関する相談を受けることがありますか?
1, ある 18/49(37%) 2, ない 30/49(61%) 3, 無回答 1/49(2%)
・貴施設での感染対策は十分だと感じていますか?
1, 十分である 5/49(10%) 2, 不足している 38/49(78%) 3, 全くできていない 5/49(10%) 4, 無回答 1/49(2%)
・貴施設では職員の感染症(感染対策)に対する知識は十分だと思いますか?
1, 十分である 14/49(29%) 2, 不足している 30/49(61%) 3, 全くない 2/49(4%) 4, 無回答 3/49(6%)
・当院の感染防止委員会が勉強会などを通じて保険薬局での感染対策に関与することを希望されますか?
1, 希望する 30/49(61%) 2, 希望しない 7/49(14%) 3, 内容にもよる 11/49(23%) 4, 無回答 1/49(2%)

サージカルマスク(以下, マスク)の着用は誰もが容易にできる感染対策の一つであるがアンケートの結果からは職員個々の判断により着用も含めれば33%以上の施設で感染症患者への対応時にマスクをしていないことが分かった。しかし, 感染症患者への対応後の手洗いやう

がいに限してはほとんどの施設で実施しており, 感染へのリスクを気にしていることが分かる。そのことからインフルエンザの流行期や処方内容などで感染症患者と明確な場合, または疑われる場合は職員の感染対策の基本としてマスクの着用は啓発すべきであると考え

表2 患者から受けた感染対策などに関する相談内容

- ・マスクの違い・手指消毒液等について
- ・外出先から帰ってきたときのうがいの効果について
- ・インフルエンザ・ノロウイルスなどに対してどのような消毒法があるか
- ・インフルエンザ流行時の手洗い・うがい・マスクの着用について
- ・効果的なインフルエンザ予防について
- ・消毒剤の種類や用法について
- ・ご家族に感染症(インフルエンザなど)患者がいる場合の対策
- ・アルコール消毒がどのくらいの程効果があるか(ノロウイルスが流行したときなど)

表3 各施設での感染対策

- ・除菌剤のスプレー使用
- ・嘔吐時にハイターにて消毒
- ・消毒をよくしている
- ・個々の判断、責任において実施している
- ・患者にも使用できるように、手指消毒剤を置いている
- ・感染対策に関する啓発のプリントを配るもしくは置いている
- ・ウイルス・細菌死滅の機器購入の検討
- ・常にアルコール製剤による手指消毒
- ・水まわりに殺菌消毒効果のある石鹸を置いて使用している
- ・服薬指導後に、手洗い・うがいをするように注意している
- ・マスク・消毒薬の積極販売
- ・待合室に空気清浄機の設置
- ・マスク・手洗い・うがいの励行
- ・インフルエンザ患者が帰ったあとは、すぐに待合室やカウンターを消毒

感染対策には患者の理解の向上が必要である。当院では様々な場所に咳エチケットや感染症に関する患者等への啓発ポスターを掲示しているが、院外薬局において掲示している施設は8%であり、ほとんどないことが分かった。「医療施設等における感染対策ガイドライン」においても、全ての医療機関で呼吸器衛生/咳エチケットの実施が求められている²⁾。感染症に関する患者への啓発ポスターの掲示はどの施設でもすぐにでも実施可能な感染対策であると考ええる。

一方、感染症患者(または疑われる患者)の来局は突然であり、その場で早急に対応しなければならないが、感染症患者へのマスクの提供は院外薬局ではほとんど行われていないことが分かった。他の患者や職員の感染のリスクを考えれば、マスクの提供もしくは販売は必要であると考ええる。しかし、半数以上の施設が紙マスクを販売、提供していると回答しているが、現在院外薬局で感染対策として販売されているマスクは不織布マスクつまりサージカルマスクが中心であると考ええるが、今回のア

表4 各施設における感染対策に関する問題点

- ・スペースが限られているので十分な隔離ができていない
- ・患者が感染症であっても認識がなく、他の患者のいるところに行ってしまう
- ・コストを考えるとなかなか十分な感染対策ができない
- ・不十分だと分かっているが、対応できないままになっている
- ・感染対策のマニュアルなどを作り、職員すべてに徹底しなければならない
- ・現状では何もしていないに等しいので今後は出来ることからはじめていきたいと思っている
- ・患者を感染症患者と判断するのが難しい
- ・感染症かどうかを処方箋などの内容だけで判断することは難しい
- ・予防接種の義務化をしていないこと
- ・職員のマスク着用については準備中である
- ・空気清浄機の設置、換気量の不足
- ・服薬指導時、マスクをしていると薬剤師の表情が見えない事を嫌がる患者がいること
- ・職員は雇歴経験がないため、危機感が少ない
- ・患者から患者への感染対策については、もっと考えなければならぬと感じる

ンケートでは詳細は不明であるが、サージカルマスクを不織布マスクではないマスクと混同して回答されている可能性もある。そのことから院外薬局ではマスクの違いや特徴を理解して提供および販売しなければならないと考える。

感染症患者との接触を避けることが、感染の伝播を防止する上で最も重要であるが、アンケートの結果からも分かるように院外薬局では感染症患者を待合で区切ることはスペース的にも困難であると考えられる。その代わりとして、感染症患者にはできる限り薬を渡す順番を先にし、他の患者と接触する時間を少なくする対策が必要であるが、実際には33%の施設でしか実施されていないことが分かった。順番に関しては他の患者にも理解を得ることが必要であり、症状によって順番が前後する旨の掲示も併せて行うことが必要であると考ええる。

当院では新入職員に対して麻疹、水痘、風疹、流行性耳下腺炎の抗体価測定をおこなっているが、感染症の既往の把握は職員を感染から守るためにも必要であると考ええる。今回のアンケートの結果では把握していないや個人の判断という回答が合わせて69%であったが院外薬局の職員の総数は平均6.9人と病院に比べて少ないことから、職員全員の既往の把握は可能であると考ええる。職員は処方内容からでは分からない感染症患者に関わる機会もあると考えられ、積極的なワクチン接種が必要だと考える。また、免疫取得状況を把握しておけば、該当感染症患者への対応は有免疫者が優先して対応し、免疫のない者に暴露があった場合も迅速な対応ができると考え

る³⁾。インフルエンザの予防接種に関しては他のワクチン接種に比べて積極的に接種されている傾向にあるのは、インフルエンザ患者は処方内容からも明確であり、関わる機会が他の感染症に比べて多いためではないかと考える。

院外薬局でも実施可能な接触感染対策としてはドアノブや手すりの清拭が重要である。アンケートの回答からは清拭していない施設もみられ、正しい清拭方法を啓発する必要があると考える。薬剤師自身の手指も感染の伝播の原因となることを忘れてはいけないが、調剤前の手指衛生に関しては比較的意識が高い傾向にあった。今後は適切な手洗い、手指消毒の手技に関して、啓発していく必要があると考える。

空気感染対策として空気の換気は必要ではあるが、院外薬局はスペースの問題などもあり、実際に患者のいる時間帯の実施は難しい。各施設においても頻繁な換気を行うように努力しているようであるが、空気清浄機、加湿器などの導入も必要であると考ええる。

37%の施設が感染対策についての相談を受けたことがあり、その内容は消毒薬の使用法や家族への感染予防といった身近なものであった(表2)。感染対策の地域でのネットワーク化は感染症の拡大防止に有用であるといわれているように⁴⁾、感染対策の相談窓口として院外薬局は重要な医療機関となると考える。しかし、院外薬局だけでは解決できない問題もあり、病院との密な連携が必要である。院外薬局では表3に示すように様々な感染対策を行っているが、88%の施設で感染対策が不足していると感じており、感染症(感染対策)に対する知識も65%の施設で不足していると感じているようであった。感染対策に関しては表4に示すように各施設で様々な問題点を持っており、当院の院内感染防止委員会が勉強会などを通じて感染対策に関与することを希望する施設が多かった。しかし、院外薬局は病院とは規模や業務内容も違い、感染症患者かどうかは処方内容や患者の申告、症状から判断することになり、対応が難しい場合が多い。そのため院外薬局で実施可能な感染対策を検討していかなければならないと考える。今回のアンケートの結果からは院外薬局での感染対策は不足している傾向にあると考える。全て病院と同様の感染対策を行うことは困難であると考えますが、感染症患者との対応時のマスクの着用、咳エチケットの啓発ポスターの掲示、適切なマ

スクの提供や販売、感染症患者に薬を先に渡すなど薬局の規模や専門的な知識の有無に関係なくすぐに実施可能な感染対策が多くあると考える。

薬剤師自身が様々な感染症の患者に接する機会が多い医療職の1つであることの認識が十分でないともいわれており⁵⁾、病院薬剤師と院外薬局薬剤師が協力して知識を向上させていかなければならないと考える。当院薬剤部と東淀川区薬剤師会はすでに薬・薬連携の一環として定期的な合同勉強会を実施しており⁶⁾、その中で今回のアンケート調査の結果の紹介とこれを基に院外薬局ですぐに実施可能な感染対策の講義を実施した。今後は勉強会だけでなく、病院と地域薬剤師会とが協力して各院外薬局への感染対策の情報提供などの啓発活動を実施していく予定であり、地域での感染症拡大の防止に貢献していきたい。

謝 辞：今回のアンケート調査にご協力いただきました東淀川区薬剤師会会員薬局の管理薬剤師の方々に深く感謝いたします。

本研究にご協力いただきました淀川キリスト教病院薬剤部の山崎愛子、坂本愛、嶽小原恵、内山ひとみ、山下朋子、臨床検査課の北里実義の各氏に深く感謝いたします。

利益相反について：本研究における利益相反はない。

文 献

- 1) 森 吉男：保険薬局で実践すべき感染管理。薬局 2009; 60: 2614-9.
- 2) 高田和壽代：薬局窓口・待合のインフルエンザ感染対策と指導。医薬ジャーナル 2007; 43: 2669-74.
- 3) 中西貴司：感染管理に必要な予防接種について。薬局 2009; 60: 2620-3.
- 4) 小林寛伊，大久保憲，福田治久，今中雄一，仲川義人，白石 正，他：薬剤師のための感染制御マニュアル第二版。日本病院薬剤師会感染制御専門薬剤師部門研修委員会編，薬事日報社，東京，2008. p. 163-8.
- 5) 鈴木敦詞，深谷修作，坂野昌志，狭間研至：ICT が担う役割と現状・課題。薬局 2008; 59: 2957-62.
- 6) 寺沢匡史，岡本 淳，小森恭子，尾上理恵，勝又江美，宮田憲一，他：淀川キリスト教病院と東淀川区薬剤師会における薬・薬連携の取り組み～合同勉強会およびアンケート調査を実施して～。日病薬師会誌 2007; 43: 505-8.

〔連絡先〕〒533-0032 大阪市東淀川区淡路2丁目9-26
淀川キリスト教病院薬剤部 寺沢匡史
E-mail: a100095@ych.or.jp

Attitude Survey on the Infection Control of Community Pharmacies

Masashi TERASAWA¹⁾, Mayumi YOSHIMURA²⁾, Takashi UEJI³⁾ and Ippei MORIMOTO⁴⁾

¹⁾*Department of Pharmacy*, ²⁾*Department of Nursing*, ³⁾*Respiratory Internal Medicine*,
⁴⁾*General Medicine, Yodogawa Christian Hospital*

Abstract

Infection control in hospitals is extremely important, but patients with infectious diseases and other patients may also gather in community pharmacies, thus allowing infectious diseases to spread. Therefore, infection control was examined in cooperation with the members of the Pharmaceutical Association in Higashi-yodogawa-ku using a questionnaire survey. The content of the questionnaire was proposed by the infection control committee in our hospital. The questionnaire was mailed to 55 community pharmacies in February 2009, and the response rate was 89%. Community pharmacies provide an important consultation service about infection control. The responses to the survey will contribute to infection control in the community.

Key words : questionnaire, infection control, community pharmacy, regional partnership